

## 【令和6年度 技術科授業改善推進プラン】

技術科で身に付けさせたい力・目指す生徒像

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成することを目指す。  
基礎的な技能や知識を習得し、身近な生活の課題を主体的にとらえ、具体的な実践を通して、問題を解決する技術を身に付けた生徒の育成を目指す。

学習状況及び課題

	1学年	2学年	3学年
学習状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に関心をもって取り組む生徒が多い。</li> <li>・立体を瞬時に表現できる生徒が多く、立体を表現、イメージできる力が高い。</li> <li>・作業経験の少ない生徒がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字入力や画像検索など、通常のコンピュータ操作はスムーズに行うことができるが、表計算など社会活動に必要なソフトウェアには、苦手意識を見せる生徒もいる。</li> <li>・興味・関心をもって授業に取り組む生徒が多く、与えられた課題に対し真面目に取り組むことができる。</li> <li>・ハンダ付け作業が初めてという生徒がほとんどである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少ない授業時間に、集中して取り組み、レポートなどしっかり提出する。</li> <li>・興味・関心をもって授業に取り組むことができる生徒が多い。</li> <li>・コンピュータ操作には慣れているが、プログラミングに不慣れな生徒が多い。</li> </ul>
指導上の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工具、機械の正しい使用方法を教え、安全かつ円滑に作業をさせる。</li> <li>・生活の中の技術分野の技術や役割を意識させる。</li> <li>・週1時間で指導内容も多く作業を伴うため、時間的な制約が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工具の正しい使用方法や起こりうるけがを教え、安全かつ円滑に作業をさせる。</li> <li>・週1時間の授業という特性があり、製作や作業も行うので、時間的な制約が大きい。</li> <li>・製作に不慣れな部分がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隔週の授業であるために基本的なスキルや知識の定着が乏しい。</li> <li>・プログラミングは学習内容の定着や発展的な学習が難しい。</li> <li>・双方向性のあるコンテンツのプログラムで、相互作用の原理を学ばせ、必要なスキルを身に付けさせる。</li> </ul>

改善プラン

	1学年	2学年	3学年
学習面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実物に触れる機会を多くし、体験させ、技術と各家庭生活を考えさせる。</li> <li>・実生活との関連を十分意識させて学習に取り組ませる。</li> <li>・「なぜ」、「どうして」を意識して学習に参加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参考とする資料を用意し、安全に作業を進める。</li> <li>・作業は特に安全に留意する。製作工程を理解させ、使用する工具など必要に応じて使用する。</li> <li>・生物育成の技術と生活や社会、身近な環境との関わりを理解させる。</li> <li>・情報では、身近な課題を設定し、社会に出て活用できる能力の育成を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活に活用できる技能を習得させるべく、コンピュータに多く触れさせる。</li> <li>・生活に密着したものである意識やゴールを意識させ授業に取り組む。</li> <li>・身近なプログラムを考えさせ、情報と密接な関係を気付かせる。</li> <li>・機能と設備など、機械的な理解を進める。</li> </ul>
指導面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に作業を進めるために実際に作業して見せる。</li> <li>・正確にしかも速く作業することを常に意識させる。</li> <li>・大切な工具や部品の名称を正確に覚えるよう板書を工夫する。</li> <li>・情報収集とモラルを正しく実践できる力を育めるよう行動させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切なソフトウェアを選択し、操作することで、情報処理に必要な技能を習得させる。</li> <li>・情報収集とモラルを正しく実践できる力を育めるよう、実践し行動させる。</li> <li>・工夫して生物を育成する喜びを体験させ、収穫までの変化や日々の記録をさせる。</li> <li>・技術と実生活の関わりを常に考えて、授業に参加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータ操作の基本を習得させる。</li> <li>・完成を意識し、そこに向かう手立てを考え、適切なプログラムを模索する。そのための命令を伝え実行する。</li> <li>・情報収集とモラルを正しく実践できる力を育めるよう、実践し行動させる。</li> </ul>

評価

- ① 各学期の定期テストの結果      ② 保存・提出された内容      ③ 実習による技能の習得、作業内容・進捗  
④ ワークシート等による実生活への発想及び展開